

令和3年度職業リハビリテーション研究発表会（山形開催）

# 発達障害者のコミュニケーション・スキルの 特性評価に関する研究（その2）

～ F&T感情識別検査拡大版に基づく特性評価・支援の検討 ～

※本スライドは、研修に参加された方向けの補助資料として作成したものです。  
※本資料のご利用にあたっては、企画調整室へご連絡いただくとともに引用元の明記をお願いいたします。

障害者職業総合センター  
障害者支援部門  
研究員 知名青子

## ■ 本日の流れ

- 1 コミュニケーションとは何か
- 2 ASD者の非言語的コミュニケーションの特徴
- 3 新版F&T感情識別検査の概要
- 4 発達障害者への検査実施事例
- 5 演習(グループディスカッション)

## 辞書的な意味

- ① 社会生活を営む人間の間に行われる **知覚・感情・思考** の伝達。  
言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする。
  
- ② ア: 動物個体間での、身振り や 音声・匂い など  
による情報の伝達
  
- イ: 細胞間の物質の 伝達 または 移動。  
細胞間コミュニケーション。



(広辞苑より)

Q.この人の気持ちを選んでください。



ありがとう。

うれしい

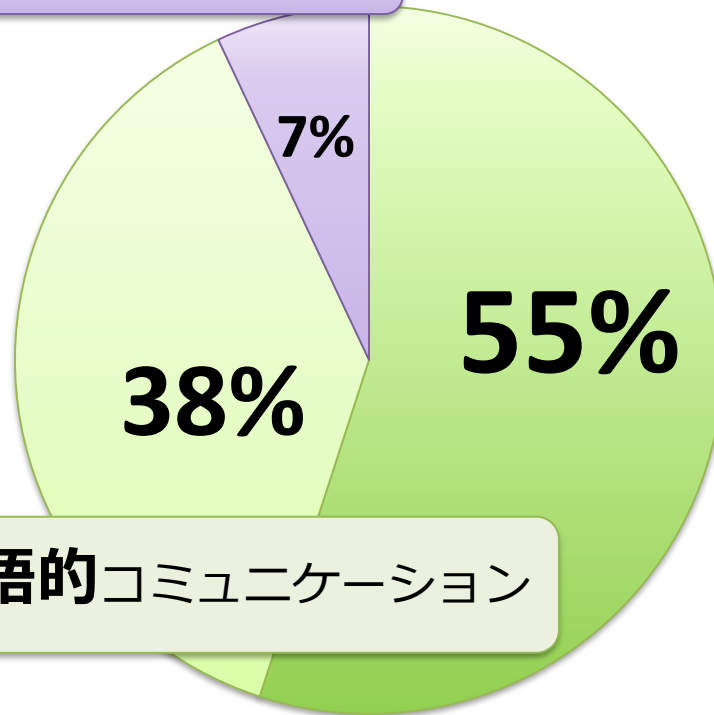
かなしい

おこって  
いる

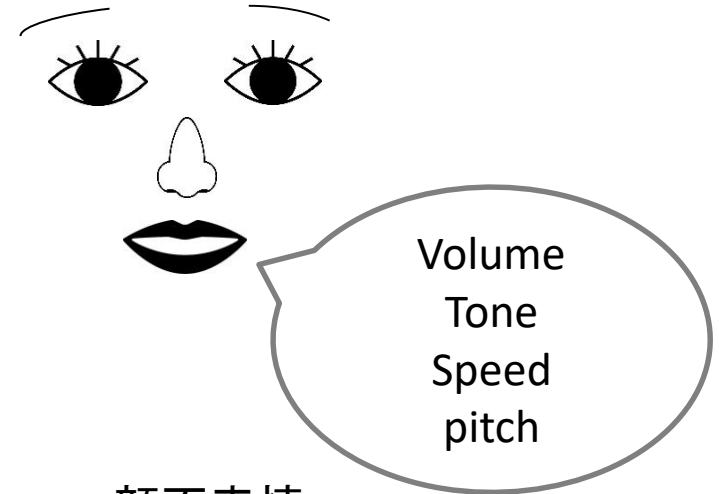
いやだ  
なあ

# コミュニケーション・チャネル(経路)

言語的コミュニケーション



非言語的コミュニケーション



- 顔面表情
- 声の調子
- 話の内容

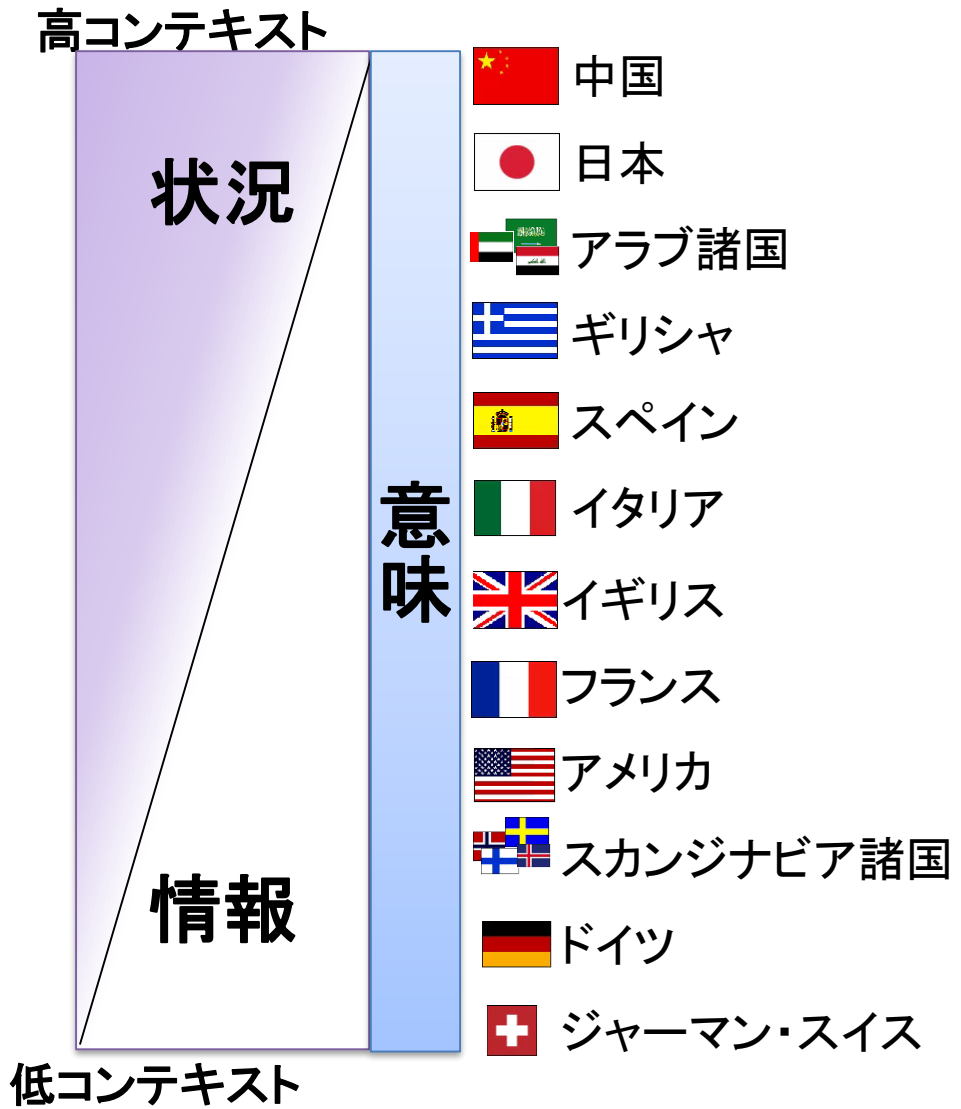
好意の伝達における各チャネルの  
重要性の割合 (Mehrabian,1972)

# 文化圏による非言語コミュニケーションの重みの違い

～高コンテキスト文化と低コンテキスト文化～ E.ホール(1959)

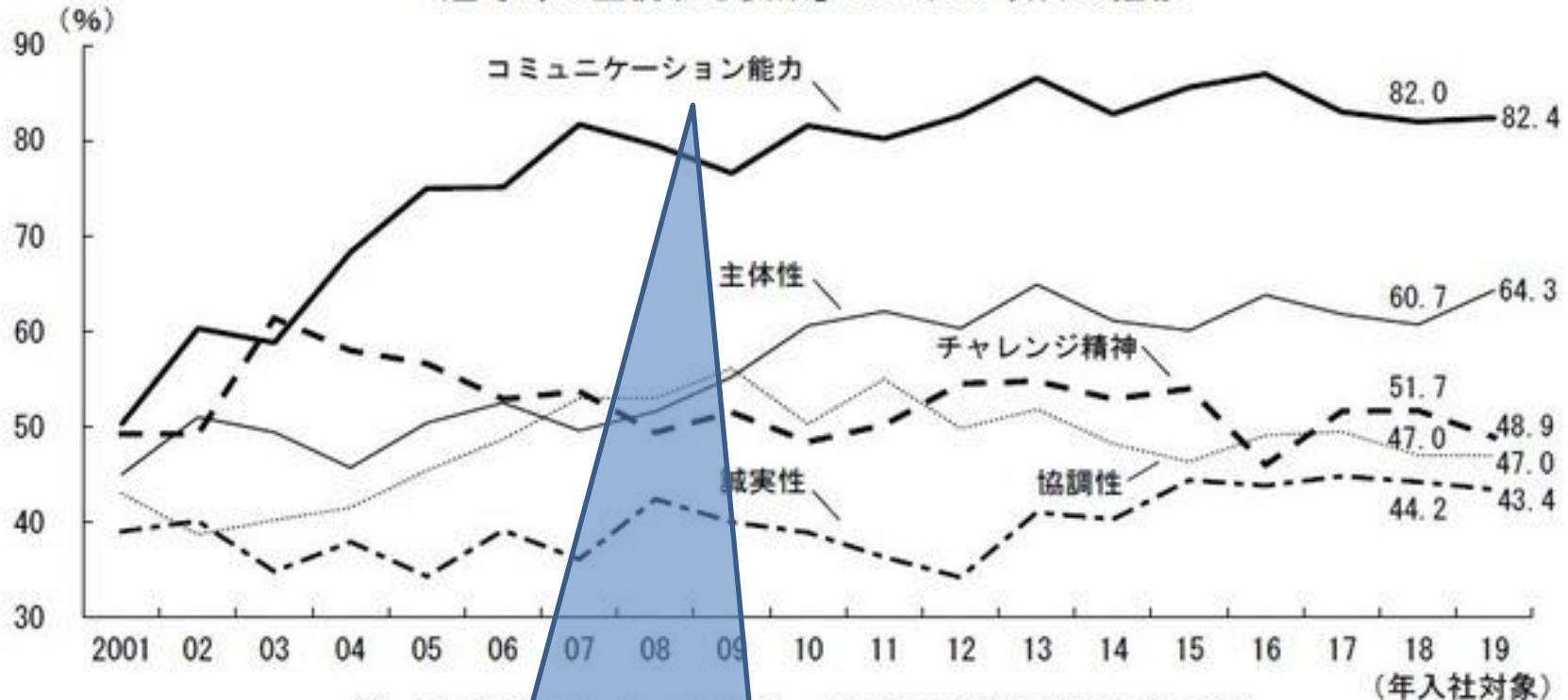
	高コンテキスト文化	低コンテキスト文化
価値観	集団主義	個人主義
	協調主義	競争主義
社会	タテ社会	横ならび社会
評価	年功序列	能力主義
空間意識	共有意識あり 他者への対人 距離は近い	プライバシー重視 他者への対人距 離は遠い
人間関係	伝統的人間関 係重視	新しい人間関係 の獲得重視
パフォー マンス	インプリット重視 同意表現を好む <b>非言語表現重 視</b>	明示表現重視 不同意表現重視 非言語より言語 重視

佐藤(1995)



# 職場で求められているコミュニケーション能力

「選考時に重視する要素」の上位5項目の推移



注：20項目から5つを選択。20項目の詳細は6頁を参照。

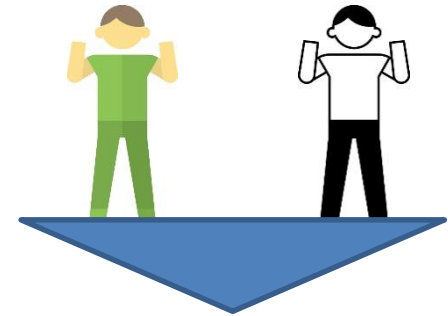
「報告・連絡・相談」は基本。周囲に合わせる・空気を読む・先回りする・暗黙のルールを読むなど、高コンテキスト文化への適応を求めている……

(日本経済団体連合会(経団連)調べ,2018)

## 2 ASD者の非言語的コミュニケーションの特徴

### 表情識別に関する研究方法

ASD者の認知特性研究の多くは、  
同年代の**“定形発達者”**（障害の診断がない）との  
**比較**を行っている。



表情からの感情認知の特性に関する研究では、  
「喜び」「怒り」などの**表情写真や動画**を提示し、  
感情を回答させることが多い。



# ASD者の表情による感情識別

不快感情(悲哀・嫌悪・怒り)の  
弁別が難しい

定型発達者と読み取りの正確さ  
の違いはない

「恐怖」、その他の不快感情の認知が  
困難→脳の応答性の弱さと関連

脳の活動水準は状況によって亢進し、  
定型発達者を上回る場合もある

先行研究での見解は  
一様でない

自閉症スペクトラム者において、あらゆる事態で表情  
からの感情識別に困難があるとは限らない

# ASD者の音声からの感情識別

「怒り」・「嫌悪」正答率  
定型発達者 > ASD者

感情語選択の正答率  
定型発達者 > ASD者

音声から感情を読み取らせた場合は  
定型発達者 > ASD者

ただし、音声の台詞から内容を読み  
み取らせた場合、  
定型発達者 = ASD

読み取りの正確さが低い  
という結果が多い

# 発達障害者の感情識別スキルの評価の意義

非言語コミュニケーション・スキルの特性は  
個別的に多様である可能性



**客観的評価を通じた、個別特性への対応の必要性**

### 3 新版F&T感情識別検査の概要

#### F&T感情識別検査

「明確な感情表現」から他者感情を「どの程度正しく読み取れるか」を評価する



DVD

VHS+表情識別訓練セット

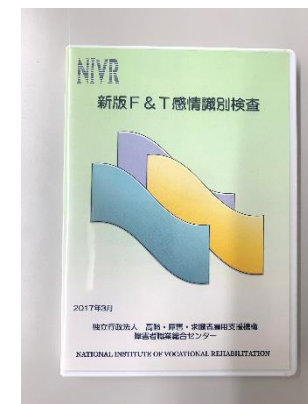
#### 新版 F&T感情識別検査

##### 4感情評定版

「明確な感情表現」から他者感情を「どの程度正しく読み取れるか」を評価する

##### 快-不快評定版

「曖昧な感情表現」から他者感情を「快または不快に偏って捉えているか」を評価する

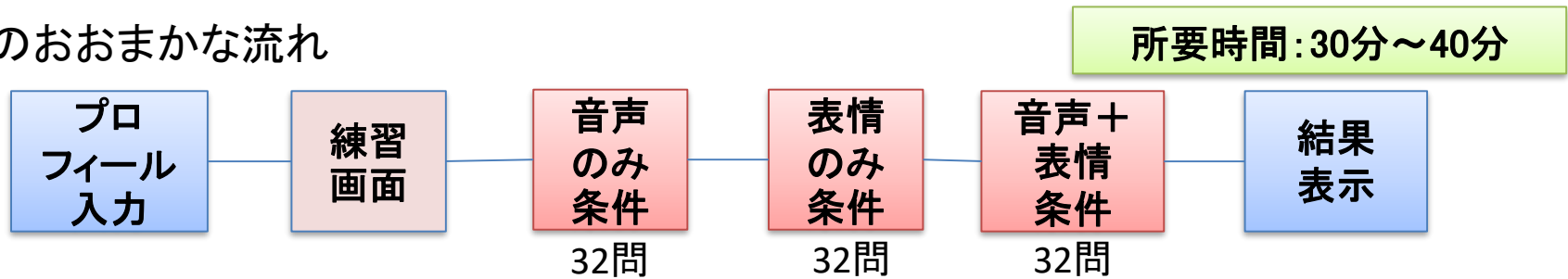


DVD

# 4感情評定版

- ・基本的な感情である「喜び」「怒り」「悲しみ」「嫌悪」のいずれかを表現した、表情(Face)や音(Tone)を呈示し、「どの感情を表現しているか」を回答させる検査
- ・音声や表情による「**明確な感情表現**」から他者感情を読み取る際の特徴を把握できる。基本感情の識別が可能であれば検査を受けることができる(知的発達に遅れがなければ生活年齢7歳程度から可能)。

検査のおおまかな流れ



どの感情（喜び・悲しみ・怒り・嫌悪）を、  
どのチャンネルから、どの程度正確に読めているか

コミュニケーション・タイプ

# 4感情評定版 …刺激と回答方法…

## 登場人物

4名(20代の男・女、40代の男・女)。演劇等で意図的な感情表出の訓練を積んでいる。

## 登場人物のセリフ

感情を含まない「おはようございます」「こんにちは」「はさみをとってください」等

## 回答方法

マウスで回答ボタンをクリック

### ① 番号(5秒)

♪ (チャイム音)

21

質問番号

### ② 呈示(2-3秒)

さようなら (音声)



### ③ 回答(6秒)

うれしい    かなしい    おこっている    いやだなあ

# 4感情評定版 ...結果表示とその読み方...

Aさん の結果

検査実施年月日： 2013年08月27日

検査回数： 1回目

		Aさん の回答			
		うれしい	かなしい	おこっている	いやだなあ
示された感情	うれしい	7	0	0	1
	かなしい	0	6	0	2
	おこっている	0	0	8	0
	いやだなあ	0	1	1	6
	合計	7	7	9	9

		Aさん の回答			
		うれしい	かなしい	おこっている	いやだなあ
示された感情	うれしい	8	0	0	0
	かなしい	0	5	2	1
	おこっている	1	2	3	2
	いやだなあ	0	1	3	4
	合計	9	8	8	7

		Aさん の回答			
		うれしい	かなしい	おこっている	いやだなあ
示された感情	うれしい	8	0	0	0
	かなしい	0	7	0	1
	おこっている	0	0	8	0
	いやだなあ	1	2	1	4
	合計	9	9	9	5

Aさん の正答率

「音声のみ」	「表情のみ」	「音声+表情」
84%	63%	84%

次の点に注目して、回答の特徴をみてみましょう。

■水色のセルに注目してください。

「かなしい」「おこっている」「いやだなあ」を「うれしい」と回答していないか  
 「うれしい」を「かなしい」「おこっている」「いやだなあ」と回答していないか

■緑色のセルに注目してください。

「かなしい」「おこっている」「いやだなあ」をうまく区別できているか

また、合計の欄をみて、「どれか一つの感情に回答があつまっていないか」についてもチェックしてみましょう。

回答の特徴について、支援者と一緒に考えてみましょう

表情		Aさんの回答			
		うれしい	かなしい	おこっている	いやだなあ
呈示された感情	うれしい	8	0	0	0
	かなしい	0	5	△2	△1
	おこっている	○1	2	3	2
	いやだなあ	0	1	3	4
	合計	6	7	11	8

○ 快-不快の混同

△ より不快に読みとる傾向

条件別の正答率の高低の組み合わせから  
コミュニケーションタイプ  
 を判定

「音声のみ」	「表情のみ」	「音声+表情」
69%	66%	94%

内容を確認し、検査結果やタイプの特徴の理解、課題の整理等に繋げる

音声依存Tタイプ

基本的な感情であっても、表情のちがいから、相手がどのような気持ち（感情）でいるのかを知ることは得意ではありません。

声の変化に集中する方が、相手の気持ちをよりよくわかる可能性が高いといえます。

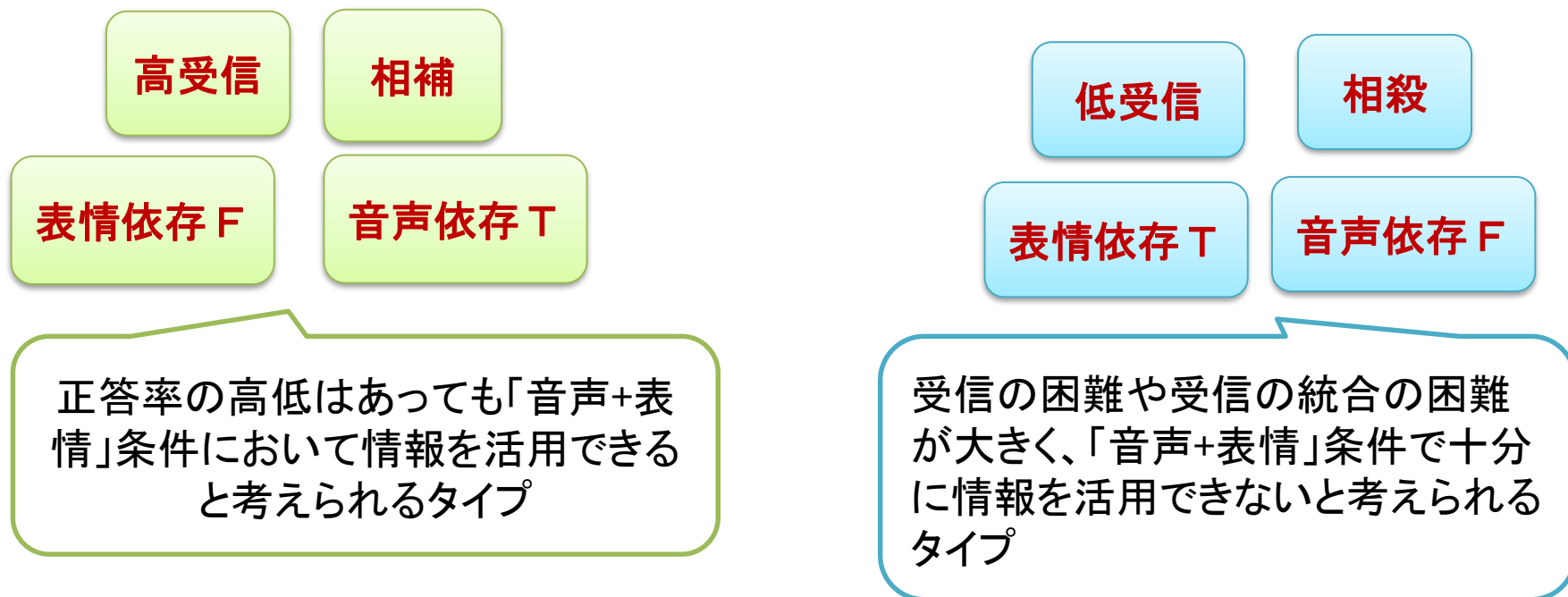
そのため、「相手の感情を知ろう」と思ったときには、「声をよく聞く」ことが大切です。



# 発達障害者におけるタイプ別人数

コミュニケーションタイプ	音声のみ	表情のみ	音声+表情	人数
高受信	高	高	高	25
低受信	低	低	低	1
相補	低	低	高	28
相殺	高	高	低	1
音声依存T	高	低	高	21
音声依存F	低	高	低	1
表情依存T	高	低	低	0
表情依存F	低	高	高	3
特定のタイプに分類されない				44

# コミュニケーション・タイプ



特定のタイプに分類されない

明確な受信と統合のタイプは見いだせないが、それぞれのタイプに準じた理解を必要とする多様性が含まれる

## 4感情評定版結果の理解における留意

### 困難の状況に応じた対応方法の検討

音声や表情からの感情識別の特徴やコミュニケーションタイプが明らかになったところで、読み取りの困難が生じる条件や、比較的得意な方法を照らして、対応を検討する。

### 「怒り」と「嫌悪」の混同について

「怒り」と「嫌悪」の混同があっても、日常生活場面での支障が少ない行動がある場合（「まず謝る。それから、何が悪かったか聞いてみる」等）、**正答に準ずるものと判断することが基本**である。

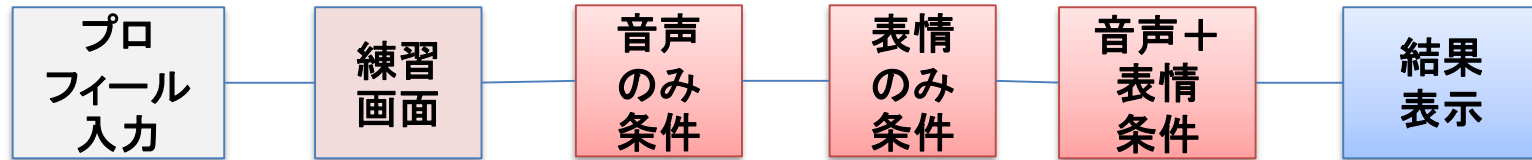
※相手の不快感情の理解と対応は関連づけてはじめて対人関係が円滑に行われることになる。他者感情を把握した後の対応の考え方や行動化については、こうした確認を踏まえた支援が必要である。

# 快-不快評定版

- ・どのような気持ちを表しているかわかりにくい「曖昧な感情」から、快-不快の程度を判断させる検査(『職場におけるコミュニケーション』を想定)
- ・「対人関係場面でどの程度のストレスを感じているか(ストレスを感じやすいのか、否か)」について把握し、職場での相談や対応のヒントを得る

検査のおおまかな流れ

所要時間: 約20分



快 - 不快、どちらかに偏って捉えているか？どのチャネルから？  
ストレスの背後は？

- ・ 検査前にアンケートで確認
  - 感情を表す言葉の理解はどうか
  - 快-不快の程度という言葉の理解はどうか
  - 直近の感情体験、ストレス体験

# 快-不快評定版 (4感情版と大部分は共通)

## 登場人物

演劇等で意図的な感情表出の訓練を積んだ20代の男・女、各1名・40代の男・女、各1名の計4名

## 登場人物のセリフ

感情を含まない「おはようございます」「こんにちは」「はさみをとってください」等

## 回答方法

マウスで回答ボタンをクリック

### ① 番号 (5秒)

♪ (チャイム音)

21

質問番号

### ② 呈示 (2-3秒)

さようなら (音声)



### ③ 回答 (6秒)

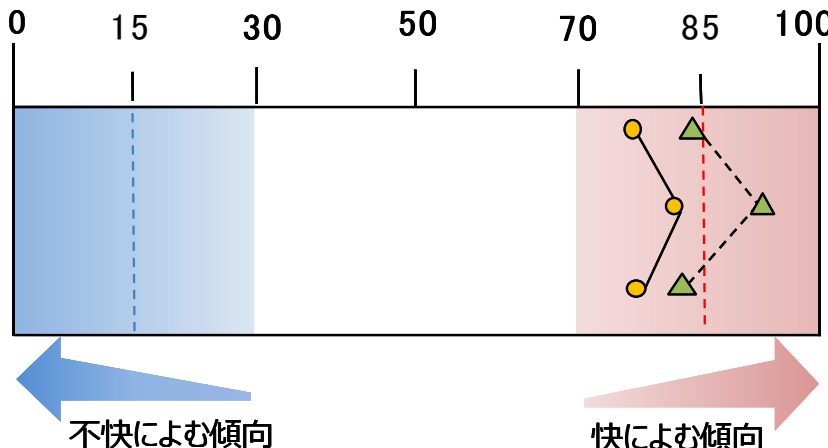
〈-4:非常に不快~+4:非常に快〉

回答してください

### 3 快-不快評定版 ...結果表の読み方...

結果表 (例)

呈示条件	パーセンタイル順位	
	○A検査(高)	△B検査(低)
音声	76	83
表情	84	90
音声+表情	77	84



読み取りの傾向	
快→不快	不快→快
0	0
0	0
0	0

**A検査 (高)**

より**不快度が明確**な刺激

**B検査 (低)**

より**曖昧**な刺激

**快→不快**

明確に快である刺激を不快  
(マイナスの値) と回答した回数

**不快→快**

A検査 (高不快) の刺激を不快  
(プラスの値) と回答した回数

## ◆結果の理解

### **A検査**（不快度の高い刺激）→ **比較的不快感の高い刺激に対する反応性。**

必要以上に不快に偏っている場合は、背景にストレスの高い状況がある、もしくは相手の不快感情を受け取った際のストレスが非常に高くなる可能性がある。（**ストレス反応の強さ**）

快に偏っている場合は、そもそも感情を正しく読みとれているかどうか（4感情評定版で快-不快の混同の有無）や、深刻な状況を楽観的に受け取りすぎていないか、も併せて確認する。

### **B検査**（不快度の低い刺激）→ **曖昧で比較的不快感の低い刺激に対する反応性。**

不快に偏っている場合は、それほど相手が不快でもないのに、必要以上に深読みしていないかを考えてみる必要がある。

快に偏っている場合は、楽観的に受け取りすぎていないか、他者感情への関心の有無等を振り返ってみる。

#### ◆呈示条件別の違い

音声や表情からの感情の読み取りの傾向を確認し、どの情報を優先するか、どのような状況を避けた方が良いか、補完手段は何を用いるか等を考える。

#### ◆読み取りの傾向

快から不快を読んだ場合、4感情評定版の【快-不快の混同】との対応を確認する。  
不快から快を読んだ場合、深刻な状況を楽観的に受け取っている傾向がないか確認する。

# フィードバック・プロトコル(一例)



## ① 導入

- ・ 4感情版の概要説明
- ・ 検査の感想聞き取り (呈示条件別、4感情別、演者別のわかりやすさ)

## ② 4感情版結果説明

- ・ 結果表の説明、呈示条件別の正答数、快不快の混同、不快感情間の混同

## ③ 4感情版結果に対する感想の聞き取り

- ・ 正答率の予想 (呈示条件別/感情別/刺激媒体別)
- ・ 不快感情を察知したときの対応についての考え方確認

## ④ 表情識別訓練セット利用 (必要なケースのみ)

- ・ 表情写真を使ったポイント解説

## ⑤ 補完手段の検討 (必要なケースのみ)

## ⑥ 快-不快版の結果説明

- ・ 快-不快版の結果解説、結果表の説明、呈示条件別のパーセンタイル順位
- ・ A検査/B検査間の差異

## ⑦ 快-不快版の結果に対する感想の聞き取り

## ⑧ ストレスに関するアンケートの結果解説

## ⑨ 課題の整理・まとめ

※プロトコルは対象者の状況に応じて前後・省略することがある



## 4 発達障害者への検査実施例

初職不適応・復職を目指す事例

### 行動面や対人面で現れた問題への対処を課題とするAさん

20代男性。発達障害。

大学で心理学を専攻。子ども対象の支援機関に就職。同僚や児童、保護者への対応が攻撃的で、指摘を受けることでパニックやヘッドバンギングが生じる。専門医から発達障害を診断され、自身は学生時代から思い当たる点があった。

対話中に攻撃的な反応や発言が表出することがあり、時折会話のルールを逸脱する。集団場面でも場にそぐわない発言がみられるなど、対人面・行動面での問題が顕著で、適応の問題が指摘されている。

## 4 感情版の結果

		さんの回答			
		うれしい	かなしい	おこっている	いやだなあ
表示された感情	うれしい	6	0	0	0
	かなしい	0	8	0	0
	おこっている	0	0	7	1
	いやだなあ	0	1	0	7
	合計	6	9	7	8

		さんの回答			
		うれしい	かなしい	おこっている	いやだなあ
表示された感情	うれしい	8	0	0	0
	かなしい	0	5	0	3
	おこっている	0	0	8	0
	いやだなあ	0	0	0	8
	合計	8	5	8	11

		さんの回答			
		うれしい	かなしい	おこっている	いやだなあ
表示された感情	うれしい	8	0	0	0
	かなしい	0	8	0	0
	おこっている	0	0	7	1
	いやだなあ	0	0	1	7
	合計	8	8	8	8

さんの正答率

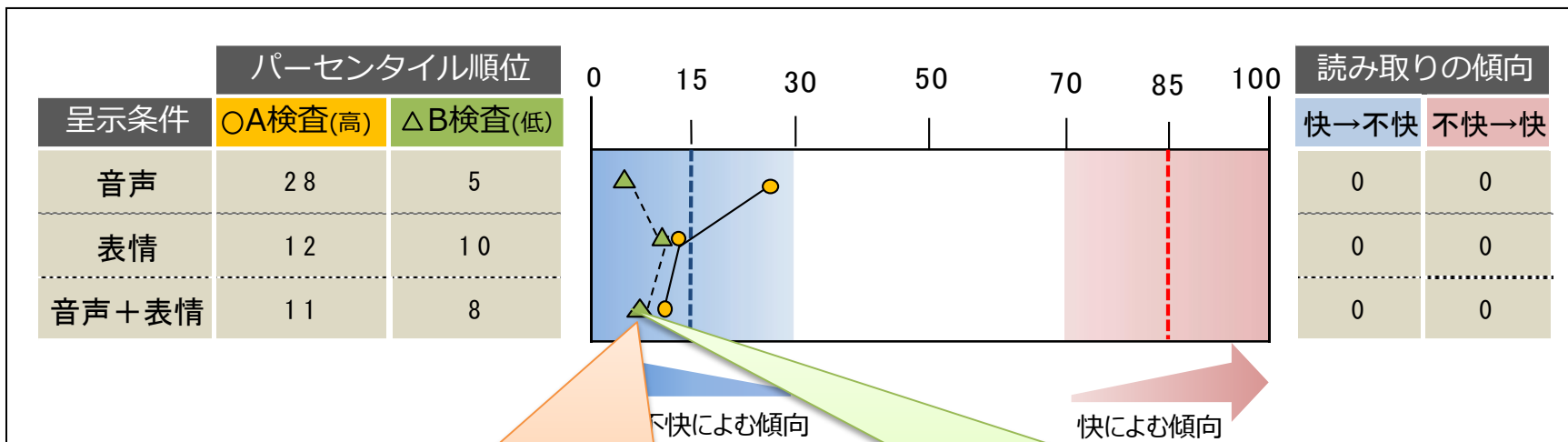
「音声のみ」	「表情のみ」	「音声+表情」
88%	91%	94%

次の点に注目して、相手の感情の特徴をみてみましょう。

コミュニケーション・タイプは「**高受信タイプ**」と判定された。

相手の感情を知ろうとした場合、基本的な感情であれば、言葉による状況の説明がなくても十分に理解される可能性が高い。

# 快 - 不快版の結果



A検査のすべての呈示条件で  
**「不快」** に偏って読み取る傾向。

B検査のすべての呈示条件で  
**「不快」** に偏って読み取る傾向。

曖昧な感情表現を「不快」の方向に  
偏って受け取っている...



相手の感情を気にしすぎる、深刻に受け止める可能性がある

## Aさんへの検査結果フィードバックの主眼

- 感情理解の**特性**について**確認**する
- 職場での課題や**対処方法**について検討する

# Aさん：結果の理解と課題の整理

## 本人の理解・感想

- 4感情版の各呈示条件の正答率を6～7割と予想していた。実際は高いことになり驚きがあった。
- 快 - 不快評定版の結果は「予想外ではなかった」。

- 不快の感情を受け取った時も、必要以上に深刻にとらえる傾向があるので、そこまで感度を強くして構えなくても良い、気持ちを楽しめることを伝えた。

- 嫌悪を察知したら、「避ける」行動を取ってきた。基本的には「聞くのが、めんどくさい」という思いがある。

- 復職を目指す上で、コミュニケーションの方法を整理し、対人態度の改善可能性を検討する必要性が明確となった。

## 支援者のアプローチ・理解

意外な結果に直面  
特性への前向きな理解

自覚が客観的に裏付けられた  
対人対応への苦手意識についての語り

ストレス対処の提案

コミュニケーションの  
課題を整理することが必要

## 「情報発信が苦手で他人にも関心は薄い 就職のために対応方法の獲得を目指すBさん」

20代男性。アスペルガー症候群。

大学在学中に診断を受けた。通学・通院のため他大学へ編入、留年したが卒業に至る。アルバイト経験は多数あり。

Bさんは「あまり他人に関心がなく、自分から他者と積極的に関わることはほとんどない」という。

他者からの質問への反応は時間を要する。また、指摘されたことを必要以上に否定的に受け止める傾向がある。

## 4 感情版の結果

		さんの回答			
		うれしい	かなしい	おこっている	いやだなあ
呈示された感情	うれしい	4	0	0	0
	かなしい	0	5	0	2
	おこっている	0	0	8	0
	いやだなあ	0	1	3	4
	合計	4	6	11	6

		さんの回答			
		うれしい	かなしい	おこっている	いやだなあ
呈示された感情	うれしい	8	0	0	0
	かなしい	0	1	0	2
	おこっている	0	0	4	0
	いやだなあ	0	0	3	5
	合計	8	1	7	7

		さんの回答			
		うれしい	かなしい	おこっている	いやだなあ
呈示された感情	うれしい	4	0	0	0
	かなしい	0	1	0	7
	おこっている	0	0	8	0
	いやだなあ	0	0	4	4
	合計	4	1	12	11

さんの正答率

「音声のみ」	「表情のみ」	「音声+表情」
66%	56%	53%

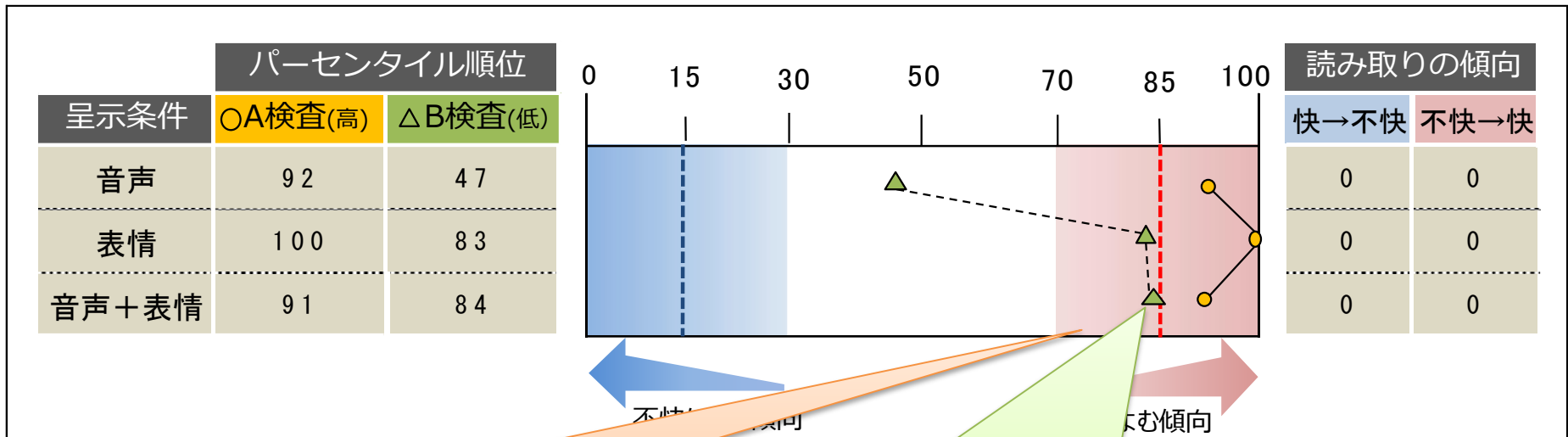
次の点に注目し、特徴をみてみましょう。

コミュニケーション・タイプは

**「特定のタイプには分類されない」**と判定された。

ただし、「**低受信タイプ**」と類似した配慮が必要なタイプであると理解できる。すべての呈示条件で正答率が低いため、相手の感情を知ろうとした場合、基本的な感情であったとしても正しく理解されない可能性が高い。

# 快 - 不快版の結果



A検査のすべての呈示条件で「快」に偏って読み取る傾向。

B検査の「表情」「音声+表情」の呈示条件で「快」に偏って読み取る傾向。

曖昧な感情を「快」の方向に偏って受け取っている...



相手の感情を気にしたほうが良い場面でも、  
それほど気にしていない可能性がある



## Bさん：検査結果フィードバックの主眼

- 他者への関心の希薄さはあるものの、まずは音声や表情からの読み取りの特徴を整理する。
- 4感情版の正答率の低さから、感情の読み取りについては、**何らかの手立てを持つことの必要性を理解する。**

# Bさん：結果の理解と課題の整理

## 本人の理解・感想

- 「音声＋表情」条件の正答率が想定より低い。不快感情は「感情の動きが無い」と感じた。
- 不快感情を察知したら「相手の機嫌が良い方に向かうなら、それをするようにする」
- “声”の調子から「危険ではない」と判断する。
- 「怒っているとか困っているかより、さらに踏み込んで、どうだと困るから、どうしろっていう風なものがあったほうがいいですね」  
→ **言葉で確認することを自ら希望。**

## 支援者のアプローチ・理解

事実と向き合う  
(自己理解への一歩)

適切な対応の理解はある

判断材料の“音声”のみでは  
不十分

補完手段の必要性への  
気づき

コミュニケーション支援  
の方向性の特定

課題が整理され、言葉で理解を補うことが優先的な手立てであることが明確となった。

## 支援の留意事項 「構えや経験」を確認する

曖昧な表現に対して、より不快に読みとる傾向の背景に、ストレスの高い経験、つらい経験があるか等の検討を行う。

### 「他者感情の理解にあたって、独特の構えがないか？」

- ①電話口の相手が「もしかしたら、怒っているのかもしれない」と構えてストレスを積もらせた。
- ②感情の読み取りに自信を持たないため、あらかじめ不快に偏って読み、話しかけないことで、予想外に相手が不快であったときのための防衛を図っている。

感情を読み誤って対応を間違った苦い経験がないか等の情報について、結果の解釈に併せて確認することも重要である。

### 配慮事項に関連するような特性はないか

「人の表情を見たり、声を聞いたりするのは疲れる」

「声を聞くとときに雑音があると気をとられる」

「電話は苦手」

「クリアな(明確な)声は“喜び”でもしんどい、“怒り”も同じ」

といった経験がある場合、特性を踏まえた支援を検討する必要がある。

「顔を見ることが怖い」者において、就職面接に失敗した経験が関連していた。「見た方がよい」ということはわかっているが「できない」時は無理をしないことを伝えることが重要であり、「相手の気持ちを言葉で確認する」などの補完行動に加えて、回答傾向の特徴を踏まえた対応についても支援の課題として検討することが必要である。

そのうえで、事業所に伝えて、言語で表現することなどを配慮として求めるなどの調整の必要性についても検討が望まれる。

## まとめ 新版F&T感情識別検査のポイント

非言語的コミュニケーション・スキルの受信面(表情・音声の読み取り)、発信面(心構え、認知の枠組み)を捉えたり、評価することができる。

コミュニケーションにおいて必要な配慮事項、必要な補完手段について検討できる。

非言語コミュニケーションの特性に対する理解を**適正化、促進**するツールである

# 理解度チェック

- (1) 新版 F & T 感情識別検査の適用可能年齢は何歳からでしょう。
- (2) 4感情評定版と快 - 不快評定版の違いは何でしょう。
- (3) 本検査はどのような目的で使用するものが適切でしょう。
- (4) 検査結果をフィードバックする際に留意すべき点を挙げてください。

# 5 演習(グループディスカッション)

## テーマ

コミュニケーションの課題がある人への見立てと対応方法について

## グループ・ディスカッションの流れ

- 1 テーマを共有する
- 2 あいさつ 自己紹介
- 3 役割決め(リーダー、発表)
- 4 各自の事例発表(各自3~4分以内)
- 5 グループの意見をまとめる
- 6 発表

事例発表の際は、下記の点にも触れてください。

- 対象者のコミュニケーション(言語的・非言語的)の課題
- どのように支援をしたか(アセスメントの方法、観察、心理検査の実施、専門家からの情報収集、本人への聞き取り等)。
- 検査等、客観的なアセスメントツールの利用可能性

グループの意見をまとめる際、下記の点も検討してください。

- コミュニケーション面のアセスメントの課題
- アセスメントで得られた結果の支援への利活用

